平成24年度（対23年度実績）

事　務　事　業　評　価　表

作成日　平成　24　年　6　月　4　日

部局名	教育委員会	所属名	青少年センター	所属長名	仁井山　久夫	電話	483-2842

1．事務事業の位置付け・概要（ＰＬＡＮ）

コード	4069	事務事業名称	青少年センター運営事業	短縮コード	経常	4069	臨時	

予算区分	会計	01	一般会計	款	10	教育費	項	05	社会教育費	目	01	社会教育総務費

区分	☑ 自治事務　☐ 法定受託事務　☐ その他	根拠法令等	八千代市青少年センター設置条例施行規則

事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）

青少年の非行防止と健全育成を図るために，八千代市青少年センター設置条例が昭和53年に制定され，八千代市青少年センター（以下「青少年センター」という）が設置された。青少年センターの適正かつ円滑な運営を諮り，活動に必要な施策を協議決定するため，八千代市青少年センター運営協議会（以下「協議会」という）を設置し，地域等との連携を図りながら青少年の補導活動を推進するために，八千代市青少年補導委員（以下「補導委員」という）を設置している。また条例第3条に関わる業務を円滑に行うため八千代市学校警察連絡委員会事務局として活動をしている。青少年センターは，これらの協議会等の連携を通じて，青少年の非行防止・健全育成を諮るため街頭補導活動，相談業務の充実・情報の共有化，健全育成に関わる広報活動等について諸活動を計画・運営している。

事務事業を取り巻く状況の変化　又、今後の変化の推測

昨年度の青少年センターでの街頭補導活動において，前年度と比較してみると高校生女子の補導数が増加傾向にあり，非行の入口にたっている傾向が見受けられる。青少年のプロフのモニタリングにおいても，公共の場で未成年の間での飲酒や喫煙，外泊等が見受けられるのが，現状である。こうした非行を未然に防ぐために，今後も非行に繋がりやすい場所を把握しながら重点的に補導活動を行う必要性がある。又，携帯サイトのモニタリング等においては，他市生徒とのリンクが増加し，携帯がツールとなり，非行を助長する傾向にある。今後も携帯サイトを中心としたプロフ等のモニタリングを定期的に行いながら，学校や警察等関係機関に必要な情報を提供していく必要性がある。近年では，家庭内での非行も増加しており，青少年補導委員による街頭補導活動は，地域社会や家庭との連携をより深め，地域ぐるみで青少年を育てていく重要な役割を担う。

総合計画の施策体系

６本の柱（章）	02	第２章教育文化都市をめざして
大項目（節）	05	第５節青少年健全育成
中　項　目	01	1．青少年健全育成
小　項　目	02	(2)青少年の自立支援体制の推進
	03	(3)青少年健全育成事業の推進
細　項　目	02	②非行防止対策・自立支援の推進
	01	①社会環境の健全化の推進
実施計画の計画事業		

計画事業の位置付けの有無	☐	計画事業期間	～	計画事業費	千円

2．事務事業の目的・指標・実績（ＤＯ）

対象（誰を何を対象にしているのか）	青少年
手段（具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成23年度に実際に行ったこと： 街頭補導活動，青少年非行防止のための会議，研修，各種行事への参加，学校と警察の連携，小中学校及び高校生の地域での善行の紹介，各学期休業中のしおりの作成，通報・相談業務，広報誌の発行，各種広報誌への掲載，青少年センター運営協議会の開催，青少年のプロフのモニタリング ※平成24年度に計画していること： 街頭補導活動，青少年非行防止のための会議，研修，各種行事への参加，学校と警察の連携，小中学校及び高校生の地域での善行の紹介，各学期休業中のしおりの作成，通報・相談業務，広報誌の発行，各種広報誌への掲載，青少年センター運営協議会の開催，青少年のプロフのモニタリング
意図（何を狙っているのか）	○非行児童生徒の発見・指導○青少年補導委員の資質の向上，補導委員相互の連携を図る。○学校と警察の連携を図り，情報交換を行う。○非行防止・事故防止や善行の奨励等青少年の健全育成について周知する。
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外

区分			単位	２２年度	２３年度		２４年度
				実績	計画	実績	計画
対象指標	指標１	青少年補導数	人	289	289	332	350
	指標２	学校警察連絡委員会活動	日	25	25	28	27
	指標３	補導委員連絡協議会活動	回	50	50	50	52
活動指標	指標１	街頭補導活動	回	300	300	377	390
	指標２	学校警察連絡委員会活動	日	25	25	28	27
	指標３	補導委員連絡協議会活動	回	50	50	50	52
成果指標	指標１	街頭補導活動	回	300	300	377	390
	指標２	学校警察連絡委員会活動	日	25	25	28	27
	指標３	補導委員連絡協議会活動	回	50	50	50	52
上位成果指標	指標１						
	指標２						
	指標３						

コード	4069	事務事業名称	青少年センター運営事業	所属名	青少年センター

			単位	２２年度	２３年度		２４年度
				実績	計画	実績	計画
事業費(A)	財源内訳	国	千円	0	0	0	0
		県	千円	250	250	250	250
		地方債	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	1,686	1,712	1,468	2,022
		その他	千円	0	0	0	0
	主な事業費の内訳			印刷製本費280千円 報償費551千円 通信運搬費155千円	印刷製本費280千円　報償費540千円 通信運搬費63千円	印刷製本費280千円 報償費512千円 通信運搬費148千円	印刷製本費280千円 通信運搬費189千円
人件費(B)			千円	34,821.8	34,226.5	34,310.5	34,310.5
トータルコスト(A)＋(B)			千円	36,757.8	36,188.5	36,028.5	36,582.5

３．事務事業の評価（ＳＥＥ）

評価類型	評価事項	評価区分	理　　由
目的妥当性	①事業目的が上位の施策に結びついているか？	☑ 結び付いている ☐ 結び付くが見直しの余地がある ☐ 結びつきが弱い・ない ☐ 評価対象外事項	青少年健全育成事業の推進，非行防止活動の推進と一致している。
	②すでに所期目的を達成しているか？ ※「達成している」を選んだ場合、⑥に進んでください。	☐ 達成している ☑ 達成していない ☐ 評価対象外事項	それぞれの活動を通じて，青少年の非行防止に結びついているが，完全に防止するというのは難しいのが現状である。更なる非行防止活動を推進させるために今後も継続が必要となってくる。
	③民営化で目的を達成できるか？ ※民営化・・・事務事業の全部又は一部の実施主体を全面的に民間事業者等に移行すること。 （民間委託は、権限に属する事務事業等を委託することで、民営化とは異なる。）	☐ 可能性はある ☑ 可能性はない ☐ 評価対象外事項	青少年補導委員については，地域のボランティアとして活動し，長年，各地域の青少年の現状を把握している方も多数いる。学校警察連絡委員会については，各学校と警察を中心に活動しているので民営化はなじまない。
	④「対象」・「意図」の設定は現状のままで良いか？	☑ 現状のままでよい ☐ 見直す必要がある ☐ 評価対象外事項	現状の「対象」「意図」で，現状の事業の目的を現せる。
有効性・効率性	⑤今後、有効性や効率性を向上させる可能性はあるか？ 可能性がある場合は、⑤－２，３を記入する。 可能性がない場合は、理由を記入する。	☐ 有効性向上の可能性がある ☐ 効率性向上の可能性がある ☑ 両方可能性がある ☐ 可能性がない	
	⑤－２ 有効性や効率性を向上させる手段は何か？ 該当する手段を選択し、具体的な方法と得られる効果を記入する。手段が「類似事業との統合・役割見直し」である場合は、該当する類似事業を記入する。	☐ 民間委託等 ☐ 再任用職員及び臨時的任用職員等の活用 ☐ ＩＴ化等の業務プロセスの見直し ☐ 受益者負担の見直し ☐ 類似事業との統合・役割見直し ☑ 上記以外の方法	現状として，青少年のプロフのモニタリングにおいて様々な非行が見受けられる。モニタリングの回数を増加させるとともに，千葉県のネットパトロールからの情報提供をもとに，より多くの情報を把握し，学校や警察等関係機関へ必要な情報提供を行っていくこと，また非行に結びつきやすい場所を把握し重点的に街頭補導活動を行っていくことが，今後青少年の非行を未然に防ぐ対策として有効となる。またより多くのモニタリングができるように必要な知識と技術を持った再任用職員を新たに配置し活用していく。 類似事務事業名称 1：　　実施主体（所管部署）： 類似事務事業名称 2：　　実施主体（所管部署）：
	⑤－３ 推進にあたっての課題はあるか？（一時的な経費増・市民の理解等）	☐ ある ☑ ない	

コード	4069	事務事業名称	青少年センター運営事業	所属名	青少年センター

今後の方向性

⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。

- ☑ 改革・改善して継続
  - ☐ 手法プロセスの改革・改善
  - ☐ 事業規模の拡大・縮小
  - ☐ 統合・役割見直し
  - ☑ その他
- ☐ 廃止・休止
- ☐ 事業完了
- ☐ 現状のまま継続

青少年の非行防止活動を行っている事業であり，今後も継続が必要である。青少年のプロフのモニタリングにおいては，市内の公共の場や家庭内での飲酒，喫煙等の様々な非行が見受けられるの現状である。情報を的確に把握し，非行に結びつきやすい場所を重点的に街頭補導活動を行っていく必要がある。また，学校や関係機関と連携し，情報を共有することで，非行防止につなげていきたい。モニタリングについては，回数を増やして行くことが，今後の青少年犯罪を未然に防ぐ手段として有効になる。モニタリングに必要な知識と技術を持った再任用職員を配置し，より多くのモニタリングをできるようにしたい。

⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。

		経費		
		削減	不変	増加
成果	向上	☐	☑	☐
	不変	☐	☐	☐
	低下	☐	☐	☐

街頭補導活動については，青少年補導委員と情報を共有化しながら連携して，非行に結びつきやすい場所を今後も重点的に行っていく。青少年のプロフのモニタリングが必要なプロフ数が増加しているため，モニタリングに必要な知識と技術を持った再任用職員を活用していく。

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見）
※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など

特になし

所属長コメント

青少年の問題行動や非行を未然に防ぐこと，問題を起こした青少年を見守ることが重要な課題であり，青少年の動向を把握することが求められている。学校，警察，行政機関等との連携を図ることはもとより，家庭や地域との連携を一層深め，情報を収集・整理し，関係機関と情報を共有し，協力して対処することで，未然に非行行為を防ぐことが必要である。そのためには，プロフ等の携帯サイトの情報について，的確に把握・整理し，対応することが非行防止につながる。

評価調整委員会評価

- ☑ 改革改善して継続
  - ☐ 手法プロセスの改革・改善
  - ☐ 事業規模の拡大・縮小
  - ☐ 統合・役割見直し
  - ☑ その他
- ☐ 廃止・休止
- ☐ 事業完了
- ☐ 現状のまま継続

青少年の非行防止のためのモニタリングについては，順次推進すること。また，再任用職員等の活用については，対応可能な業務を検討・整理したうえで，推進すること。